

岸竹堂 きしちゆうどう 日本畫家。文政九年四月（千七百九十一年）江國生れ、明治二

十年七月（千七百九十三年）歿（二六三一九七）。善好寺尾、講昌祿、字子箱、幼名

米吉、通稱八郎、米次郎。別號如花、殘夢、眞月、虎林等。狩野永岳

の學び、ついで次で岸達山の師事としてその嫡養子となる。友禪流の下繪描ぎ

生活と、のちフエノロサの認められて名を上げた。鳥獸畫、殊に虎圖

を得意とする。明治二十九年帝室技藝員。

文獻、西村五雲加藤英舟著『岸竹堂』、豊田豊齋著、昭和七年八月十五自莊人

社）等。